

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)				
政治・経済	3	全日制・普通科・第3年次	『高等学校 政治・経済』(第一学習社)				
科目の目標	<p>・現代の政治・経済に関する諸課題を捉え考察し、解決策を選択・判断するために必要な概念や理論について理解するとともに、諸資料から必要となる情報を適切かつ効果的に見だし調べまとめる技能を身に付ける。</p> <p>・現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や合意形成、社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。</p> <p>・変化が加速しますます複雑化・多様化する現代において、国民主権を担う公民として、自国を愛し平和と繁栄を企図するとともに、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについてグローバルな視点から自覚を深める。</p>						
月	単元・題材名	指導時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1編 現代日本の政治・経済の諸課題 第1章 現代日本の政治・経済 第1節 日本国憲法と現代政治のあり方	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本国憲法と明治憲法を比較して、それぞれの特徴を理解できる《知・技》</li> <li>日本国憲法が、明治憲法よりいかに民主的であるかを考えることができる《思・判・表》</li> <li>日本国憲法にある権利を、身近な事例で示すことができる《思・判・表》</li> <li>日常生活における事例を、憲法の条文と関連づけて考えることができる《思・判・表》</li> <li>日本と各国の政治体制を比較して、その違いを理解できる《知・技》</li> <li>自衛隊や日米安保のあゆみと現状とを関連づけて理解できる《知・技》</li> <li>日本国憲法の平和主義を、現在の日本をとりまく国際情勢の中で評価できる《思・判・表》</li> <li>日常生活の中で、政治や法との関わりを実感することができる《態度》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する</li> <li>社会の変化と憲法の果たす役割について考察</li> <li>平和主義と我が国の国際貢献のあり方について考察</li> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>ワークブック</li> <li>提出課題</li> <li>ノート提出</li> <li>定期試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>明治新政府から現在に至る我が国の政治の流れを振り返りながら、日本国憲法の基本原理と意義を理解し、将来の望ましい民主政治を果たす役割について考察</li> <li>【活動内容】</li> <li>新旧憲法の比較・考察</li> <li>現代に生きる基本原理と憲法改正の是非を考察</li> <li>グループ活動(主権者として現状を見つめる)</li> <li>全体発表、まとめ</li> <li>小レポート作成(どのような視点で自らは判断したか)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章記述(憲法の基本理念と私たちの暮らし)</li> <li>グループによる話し合いと発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地歴科(世界史、日本史、地理)での学習事項も連携させる</li> </ul>
5月	第2節 望ましい政治のあり方と主権者としての政治参加のあり方	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>主権者として、どのように政治に関われるかを意識することができる《態度》</li> <li>市民革命以降の民主政治の歴史的なあゆみを理解できる《知・技》</li> <li>民主政治の基本原則を、身近な集団生活の中で活用できる《知・技》</li> <li>現代の社会における民主政治の価値やその必要性を評価できる《思・判・表》</li> <li>国会・内閣・裁判所のしくみとその役割、関係を理解できる《知・技》</li> <li>国会での審議や内閣の閣議など、時事問題に関心を持つことができる《態度》</li> <li>司法権の独立と違憲審査権など司法の特徴を理解できる《知・技》</li> <li>裁判員制度の導入によって、司法がどう変わったか考えることができる《思・判・表》</li> <li>地方自治のしくみを理解し《知・技》、実際の地方自治体</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する</li> <li>自己の考察のまとめ</li> <li>他者の発表の傾聴</li> <li>グループでの話し合いへの積極的参加</li> <li>小レポートの作成</li> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>ワークブック・提出課題</li> <li>ノート提出</li> <li>定期試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>憲法の下、三権分立が適正に機能し民主的な権力機構が機能していることを理解する</li> <li>憲法の保障する地方分権のあり方を主権者の意識を持ち理解し、担おうとする意識を涵養する</li> <li>【活動内容】</li> <li>教科書各図説の読み取りと考察</li> <li>個人による思考と考察</li> <li>グループ活動(個人体験発表と話し合い)</li> <li>全体発表、まとめ</li> <li>小レポート作成(体験的振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章記述(民主政治と主権者)</li> <li>グループによる話し合い</li> <li>小レポート作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な問題や事象に関連づけて考えると共に、「探究」活動にも配慮して学習するように促す。</li> </ul>
6月	第3節 市場経済の機能と限界	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>資本主義経済と社会主義経済のしくみと特徴を比較・理解できる《知・技》</li> <li>資本主義経済の歴史的發展過程を把握して、現状を認識できる《知・技》</li> <li>経済活動の主体が、現実にもどのような活動をしているかを考えることができる《思・判・表》</li> <li>市場機構を理解して、市場経済に関する基本的知識を理解できる《知・技》</li> <li>国民所得が経済成長に与える効果について、具体的例を引いて考察し、表現する《思・判・表》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する</li> <li>身近な生活と法の関わりについて考察しまとめる</li> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>ワークブック</li> <li>提出課題</li> <li>ノート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>現代資本主義経済の基礎を歴史的過程をふまえながら理解する。その際に各経済主体の果たす役割を意識しながら学習を進める</li> <li>【活動内容】</li> <li>身近な経済主体として家計を取り上げ考察する(収入、貯蓄、支出等)</li> <li>グループ活動(個人体験発表と話し合い)</li> <li>全体発表、まとめ</li> <li>小レポート作成(体験的振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章記述(現代経済の動向について～グローバル化や国内動向等)</li> <li>グループによる話し合い</li> <li>小レポート作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>経済研究機関や財務省、内閣府Webページ等を有効に活用する</li> </ul>
7月	第4節 持続可能な財政および租税のあり方	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の財政の状況と問題点を理解する《知・技》</li> <li>安易な増・減税や国債発行に頼らずに、いかに将来世代に持続可能な制度・しくみを渡せるかを考察する《思・判・表》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する</li> <li>身近な生活と法の関わりについて考察しまとめる</li> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>ワークブック</li> <li>提出課題</li> <li>ノート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>財政状況の客観的な把握と、将来展望を考察し、まとめる</li> <li>【活動内容】</li> <li>身近な経済主体として家計を取り上げ考察する(収入、貯蓄、支出等)</li> <li>グループ活動(個人体験発表と話し合い)</li> <li>全体発表、まとめ</li> <li>小レポート作成(体験的振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章記述(財政状況の振り返りと将来展望について)</li> <li>グループによる話し合い</li> <li>小レポート作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府統計や各種調査機関の信頼できるデータを活用する</li> </ul>
9月	第5節 金融を通じた経済活動の活性化	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>金融の果たす役割の基本と今日的な変化を理解する《知・技》</li> <li>金融のグローバル化がもたらすものと、それへの対応のあり方を考察する《思・判・表》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する</li> <li>現代経済において金融が市場経済において果たす役割をまとめる</li> <li>授業態度</li> <li>発問評価</li> <li>ワークブック</li> <li>提出課題・ノート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際金融や国内金融の変化を調べまとめる</li> <li>【活動内容】</li> <li>「貯蓄から投資へ」は何を意味するかを考察する</li> <li>グループ活動(個人体験発表と話し合い)</li> <li>全体発表、まとめ</li> <li>小レポート作成(体験的振り返り)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小レポート作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>政府発行パンフや金融機関の案内等でNISAやiDeCo等について調べてみる</li> </ul>
	第6節 経済活動と福祉の向上		<ul style="list-style-type: none"> <li>高度経済成長からの産業構造の変化を資料等で確認し《知・技》、その問題点について討論する《思・判・表》《態度》</li> <li>中小企業の活動実態を調べ《知・技》、これからのあり方を創造的に思考する《思・判・表》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本経済の歩みを踏まえ、国際化・複雑化する未来を展望しながら、過去の問題点を明らかにし、将来を拓くべき方向性を</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章記述(起業、6次産業化、環境保全、ネット下の消費者、少子高齢化社会と持続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>新聞・雑誌・ネット等の各メディア報道や関係各庁Webページを有効に活用し、多面的に考察する</li> </ul>

10月		15	<p>ソノを前提的に心づくこと心判表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公害問題について、過去の歴史を振り返り、その取り組みを確認することができる《知・技》</li> <li>・消費者問題の具体例をあげ《知・技》、消費者のあり方について考え発表する《思・判・表》ことができる</li> <li>・日本の労使関係を理解し《知・技》、急速な変化を遂げつつある労働環境と労働問題について考え、展望する《思・判・表》ことができる</li> <li>・持続可能な社会保障のあり方を深く思考し、新たな制度を創造する《思・判・表》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦後経済の経緯と変化への対応等を理解する</li> <li>・経済活動が生むひずみをめぐる問題を生活者視点から認識し、解決策を展望する</li> <li>・望ましい労使関係を考える</li> <li>・授業態度・発問評価</li> <li>・ワークブック</li> <li>・提出課題・ノート提出</li> </ul>	<p>同部化社会と持続可能な働・社会保障のあり方等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsの確認</li> <li>・意識</li> <li>・グループによる話し合い</li> <li>・小レポート作成</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多面的な考察を試みる</li> </ul>	
11月	<p>第2章 現代日本の諸課題の探究</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化</li> <li>2 地域社会の自立と政府</li> <li>3 多様な働き方・生き方を可能にする社会</li> <li>4 産業構造の変化と起業</li> <li>5 歳入・歳出両面での財政健全化</li> <li>6 食料の安定供給の確保と持続可能な農業構造の実現</li> <li>7 防災と安全・安心な社会の実現</li> </ol>	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の日本社会が直面するきわめて重要かつ解決が望まれる7課題について、その経緯と現状を理解する。《知・技》</li> <li>・いかに課題を解決し望ましい将来社会を構築するか、方策を探究する。《思・判・表》</li> <li>・主権者・有権者として諸課題を解決するための積極的政治参加につなげることができる《態度》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下の活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する</li> <li>・幅広く資料を集め検討し分析することで現状を把握し、将来を展望する</li> <li>・相互に意見を交換し多様な考え方に触れる</li> <li>・意見(仮説)を発表し合う</li> <li>・資料分析</li> <li>・話し合い</li> <li>・意見交換、発表</li> <li>・記録</li> <li>・ノート提出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の日本を取り巻く7つの諸課題について、問題の本質を理解するとともにいかにして解決策を導き出し、将来社会を創造できるかを意識する</li> <li>個人及びグループで複数の課題を取り上げ考察・探究発表しディスカッションする。</li> <li>・小レポート作成(関係各分野の現状と未来の姿について)</li> <li>・話し合い活動、発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者の意見を傾聴し、批判を加えながら考察する</li> <li>・政府関係機関等の客観的な一次資料を基にする</li> <li>・自由で多面的な考察を試みる</li> </ul>	
《12月・1月は個人又は班(原則4人)ごとに以下の学習内容より1テーマを選択し、考察を加え展望した結果を発表する形態とする》							
12月	<p>第2編 グローバル化する国際社会の諸課題</p> <p>第1章 現代の国際政治・経済</p> <p>第1節 国際法の果たす役割</p> <p>第2節 国際平和と人類の福祉に寄与する日本の役割</p> <p>第3節 相互依存関係が深まる国際経済の特質</p> <p>第4節 国際経済において求められる日本の役割</p>	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近代主権国家の出現と国際社会の形成における国際法の必要性を歴史的過程を元に理解できる。《知・技》</li> <li>・国際紛争と国際社会の組織化の試みを振り返りながら、今後の世界平和と実現を展望する。《知・技》</li> <li>《思・判・表》</li> <li>・冷戦前後と多極化の時代を経た現在までの国際政治の動向を振り返るとともに、中国など新たな超大国台頭の下での国際平和のあり方を展望する。《知・技》</li> <li>《思・判・表》</li> <li>・BRICsやASEAN等の新興国台頭や米中経済競争の激化などの状況下において、世界経済の発展と日本のとるべき対応について思考する。《知・技》</li> <li>《思・判・表》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>以下活動に熱心に取り組み、十分な成果をあげているかを評価する。</li> <li>また他班の発表をよく聞き、適切に評価し、自班の学習に有効に生かしているかを評価する。</li> <li>・冷戦後のグローバル化の影響とは何か考察する。</li> <li>・国際社会の脅威とは何か、考察する。</li> <li>・国際社会の対立・分断はなぜ進むのか考察する。</li> <li>・単に自国優先ではなく、グローバルな視点から世界貿易の発展と繁栄を展望する。</li> <li>・依然として続く核拡散や地域紛争の激化をふまえ、日本の果たすべき役割を考察する。</li> <li>・授業態度・発問評価</li> <li>・ワークブック</li> <li>・提出課題・ノート提出</li> <li>・定期試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを調べ理解する。</li> <li>【活動内容】</li> <li>・超大国(陣営)の対立や軍縮の歩みを国際平和の観点から展望する。</li> <li>・テロ、核軍拡や難民問題の拡大など対立と分断が進む現状を認識し、解決策を探る。</li> <li>・流動化する国際社会において、日本の果たすべき役割を平和主義を踏まえて考察する。</li> <li>・小レポート作成(集団安全保障・核軍縮と日本、難民問題と日本、複雑化する世界経済等)</li> <li>・プレゼンテーション資料作成(班ごとの話し合い活動を深めながら)</li> <li>※クロームブックを有効活用する(最終的にスライドでまとめる)</li> <li>※アナログ的資料も可とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章記述(SDGs、地域紛争、民族紛争、難民問題、経済覇権主義等)</li> <li>・グループによる話し合い</li> <li>・小レポート作成</li> <li>・的確でわかりやすい発表資料作り</li> <li>・適宜メモ等を取りながら他班の発表を聞き、適切な批判を加える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合、外務省、経済産業省、JETRO等の各Webページを有効に活用する。</li> <li>・引用時は出所を明らかにする。</li> </ul>
1月	<p>第2章 国際社会の諸課題の探究</p>	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷戦後のグローバル化の影響とは何か考察する。</li> <li>・国際社会の脅威とは何か、考察する。</li> <li>・国際社会の対立・分断はなぜ進むのか考察する。</li> <li>・単に自国優先ではなく、グローバルな視点から世界貿易の発展と繁栄を展望する。</li> <li>・依然として続く核拡散や地域紛争の激化をふまえ、日本の果たすべき役割を考察する。</li> <li>・授業態度・発問評価</li> <li>・ワークブック</li> <li>・提出課題・ノート提出</li> <li>・定期試験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>主権国家が並び立つ国際社会は、どのように成り立っているのかを調べ理解する。</li> <li>【活動内容】</li> <li>・超大国(陣営)の対立や軍縮の歩みを国際平和の観点から展望する。</li> <li>・テロ、核軍拡や難民問題の拡大など対立と分断が進む現状を認識し、解決策を探る。</li> <li>・流動化する国際社会において、日本の果たすべき役割を平和主義を踏まえて考察する。</li> <li>・小レポート作成(集団安全保障・核軍縮と日本、難民問題と日本、複雑化する世界経済等)</li> <li>・プレゼンテーション資料作成(班ごとの話し合い活動を深めながら)</li> <li>※クロームブックを有効活用する(最終的にスライドでまとめる)</li> <li>※アナログ的資料も可とする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章記述(SDGs、地域紛争、民族紛争、難民問題、経済覇権主義等)</li> <li>・グループによる話し合い</li> <li>・小レポート作成</li> <li>・的確でわかりやすい発表資料作り</li> <li>・適宜メモ等を取りながら他班の発表を聞き、適切な批判を加える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国際連合、外務省、経済産業省、JETRO等の各Webページを有効に活用する。</li> <li>引用時は出所を明らかにする。</li> </ul>	
指導時間数の計		105					